~~~~~

午前 10 時 00 分 開議

○岡田議長 これより本日の会議を開きます。

この際、御報告申し上げます。

本日の会議に説明のため出席を求めた者の職氏名は、報告書のとおり御了承願います。

なお、本日の議事日程は、配付しております日程書のとおり行いたいと思います。

~~~~~

第 1 市政一般に対する質問

○岡田議長 それでは、日程第 1、市政一般に対する質問を行います。

順次発言を許します。

初めに、森谷議員。

〔森谷議員質問席へ〕

○森谷議員 おはようございます。新ファミリアの森谷司でございます。今日から 3 月定例議会がスタートして、トップバッターで務めさせていただきます。今回、米子市と淀江町の合併について、それから生活習慣病についての概要 2 点でお伺いいたします。

最初に、米子市と淀江町の合併についてでございますけれども、今年 3 月に米子市、淀江町、合併 20 周年を迎えます。その成果と課題について、市長の総括をお願いいたします。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 これまで合併 20 周年ということでございますが、平成 16 年に決めました米子市・淀江町新市まちづくり計画と、

それから平成18年に定めて、その後、適宜更新をしてきました新米子市の総合計画に基づきまして、合併特例債などを活用しながら、道路や河川、学校などの社会インフラの整備と併せまして様々なソフト事業を推進してまいりました。当時の厳しい財政状況の中、適切な行政サービスの提供と財政基盤の確立を両立することができたと考えてございます。また、近年では平成30年に淀江振興本部を設置いたしまして、伯耆古代の丘公園の無料化や淀江どんぐりこども園の整備、あるいは淀江球場グラウンド改修など淀江エリアのまちづくりにも努めてきたところでございます。

今後につきましては、コミュニティバスの充実やJR淀江駅の改修など公共交通の利便性を高めつつ、淀江エリアが有する歴史や文化資源を活用したさらなるにぎわい創出を図りながら、町なかと郊外の一体的な発展を目指していく所存でございます。

○岡田議長 森谷議員。

○森谷議員 ありがとうございます。合併ということもありますので、ちょっと淀江町に関するいろんな質問をしていきたいと思っておりますけれども、まず、東大人文学部が令和4年から当面5年間の予定で立ち上げた淀江研究のプロジェクトがございます。昨年11月30日にコンベンションセンターで第3回シンポジウムが開催され、私も参加してきました。その中身は、「現代によみがえる上淀廃寺の魅力」というタイトルの講演でございまして、このシンポジウムは米子市、一般財団法人米子市文化財団の共催となっておりますので、それに関するちょっと質問をしていきたいと思っております。東大人文学部が軸に上淀廃寺に関するシンポジウム及び研究をされておりますけれども、この取組の評価を伺ってま

います。

○岡田議長 中久喜淀江支所長。

○中久喜淀江支所長 東大人文・淀江プロジェクトの評価についてでございますけれども、本プロジェクトは令和4年4月に5か年計画で立ち上がったプロジェクトでございます。当該プロジェクトを円滑、かつ効果的に進めるため、令和6年度から本市と東京大学とは受託研究契約を締結いたしまして、事業実施に係る経費を令和6年度から8年度までの3か年間支援することとしております。東京大学が淀江地域を調査し、淀江地域が朝鮮半島からの大陸文化伝来にどのように関わったかを研究することによりまして、淀江地域の考古学的価値の確立、認知度向上につながるるとともに、日本海域の文化交流史分野の発展を促すことにつながるという具合に考えております。

○岡田議長 森谷議員。

○森谷議員 支所長の答弁にもありましたけれども、東京大学が淀江地域を調査して、その淀江地域が朝鮮半島からの大陸文化伝来にどのように関わっているかということの研究していくと。淀江地域の考古学的な価値の確立、認知度向上につながるようという発言がございました。ありがとうございます。

それでは、こういう東京大学の取組も含めて、本市における今後の方向性についてお伺いしたいと思っております。

○岡田議長 中久喜淀江支所長。

○中久喜淀江支所長 本市の今後の方向性についてでございますけれども、まずは本プロジェクトが実のあるものになるよう、東京大学と連携を密にして取り組みたいという具合に考えておりま

す。このプロジェクトによりまして、歴史文化遺産としての地域資源の価値を再認識いたしまして、郷土愛の醸成などに寄与するという具合に考えております。本プロジェクトがきっかけとなりまして東京大学と関わりを持つに至ったことはまたとない機会と考えております。今後、本市と東京大学の関係が継続して発展をすればいいのではないかと考えております。

○岡田議長 森谷議員。

○森谷議員 本当に本市と東京大学がこういうプロジェクト、関係持ってやっていただけるということで非常に期待しておりますので、よろしく願いいたします。

続きまして、淀江町のまちづくり事業についての質問をさせていただきます。歩いて楽しいまちづくり事業もJR米子駅を軸に今、推進されていると思えますけれども、そこでお伺いしたいのは、JRの駅、そしてまた地域活性化として全国に広がってる道の駅、これはどうしても駅というネーミングなんですけれども、この駅の持つ役割についてお伺いいたします。

○岡田議長 中久喜淀江支所長。

○中久喜淀江支所長 役割についてでございます。まず、駅についてでございますけれども、通勤や通学、観光等のため、鉄道に乗降する施設としての役割のほかバス、タクシーなどの交通機関と接続し、乗り継ぎが行われる交通のハブ施設としての役割、各地域の玄関口としての役割など多面的な機能を持っているという具合に考えております。

次に、道の駅についてでございますけれども、道路利用者に安全で快適な道路交通環境を提供することや地域振興の場となるこ

とを目的といたしまして、市町村等が一般道に設置する休憩施設で、主な役割といたしましては、24時間無料で利用できる駐車場とトイレを備える休憩施設としての役割、道路情報や地域の観光情報など情報発信施設としての役割、地域振興施設としての役割などがあるという具合に考えております。

○岡田議長 森谷議員。

○森谷議員 駅とか道の駅、これは言われるように、休憩施設、観光などの情報発信施設、地域振興施設としての役割があるということと理解できました。

この質問しましたのは、今後、JR淀江駅がどういうふうに改装されるかということに対してちょっと期待がありまして、質問させていただいておりますけれども、JR駅も、また地方においてはどんどん無人化になる駅が増えてるということも聞いております。その無人駅の活用でフリーマーケットをしたり、様々な工夫し、努力されてるということも聞いております。身近には鳥取県八頭町の隼駅は隼ライダーの聖地と言われて、去年は第14回隼駅まつりを開催して、2,500台、そして2,700名が集合したと。これも駅の活用ということの一つの実績といたしますか、情報ではないかと思っておりますので、今後、JR淀江駅の活用の方向性として、この駅を軸とした何か構想があるのかないかをお伺いいたします。

○岡田議長 中久喜淀江支所長。

○中久喜淀江支所長 淀江駅を軸とした構想についてでございます。まず、JR淀江駅ですけれども、伯耆古代の丘公園や淀江ゆめ温泉などの観光施設や上淀白鳳の丘展示館、上淀廃寺跡などの

歴史施設の近くに位置しておりまして、観光面及び文化面における淀江エリアの玄関口でございます。これまでも淀江駅は、今年度も実施していただきましたけれども、淀江小中学校の生徒による清掃活動や地域の学生やボランティアなどにより花壇整備が行われるなど、地元住民にとっても憩いの場として愛着を持って利用されているところでございます。来年度は新米子市発足20周年、伯耆古代の丘開園30周年をはじめ「やりすぎ淀江伝説」の続編を活用した仕掛けづくりや伯耆古代の丘エリア活性化構想の更新など淀江の地域資源の磨き上げの重要な年だという具合に認識しておりまして、地域関係者の声もよく伺いながら、今後、再整備される駅の利活用を含め、淀江エリアのにぎわい創出を図ってまいりたいという具合に考えております。

○岡田議長 森谷議員。

○森谷議員 おっしゃるとおりに、本当にJR淀江駅の活用は、これは本当に大きな可能性を秘めていると思います。伯耆古代の丘エリア活性化を含めた淀江町のいわゆるミニ観光案内所のような役割とか、また地元の方々の憩いの場、交流の場になることもまた期待しておりますので、よろしく願いいたします。

淀江町はまさに文化と名水の里と言われております。そして、あえてこの淀江の問題取り上げておりますのは、米子市は韓国東草市と姉妹都市提携を結んで、今年が30年となる歴史があります。また、米子ーソウル空港との国際便も3月末から週5回になると。そしてまた、東海と境港市を結ぶ貨客船も運行しているという意味においては、私が考えるには最大のインバウンドを期待する国はこういった陸、空も含めて韓国かなと思っておりまして、

その意味からも東京大学が淀江地域を調査して、淀江地域が朝鮮半島から大陸文化伝来にどのように関わったかを研究しているという、また、そういった学術的な発表もありましたし、また以前も質問しましたけども、草野慎一先生の邪馬台国の首都は米子説という、こういった淀江地域の考古学的価値も併せて非常に淀江は魅力的な一つの古代文化の原石のようなところかと思っておりますので、今後の淀江町への取組におけるビジョンを市長にお伺いしたいと思えます。

○岡田議長 伊木市長。

○伊木市長 淀江地域につきましては、ここには4つの国の指定史跡がございますし、また天の真名井や本宮の泉をはじめとする名水がございます。水と緑と史跡のまちとしてその特色を生かしたまちづくりをこれまでも進めてきたところでございます。東大人文・淀江プロジェクトですとか、あるいは先般発行し、また今、第二弾の発行の準備もしております「やりすぎ淀江伝説」の、これの発行ですとか天の真名井水車復活プロジェクトへの支援、あるいは伯耆古代の丘公園の年次的整備などはその一環でありまして、今後も歴史と文化に根差したまちづくりといたしまして、文化財や歴史遺産を保護し、その価値を周知するとともに、伯耆古代の丘エリアのにぎわいづくりに取り組みたいと考えております。

○岡田議長 森谷議員。

○森谷議員 ありがとうございます。韓国の方は特に山登りが好きだというふうに聞いておりますので、願わくば大山登山、そして降りてきて、下山して、伯耆古代の丘とか上淀廃寺を観光して、皆生温泉に泊まっていただくというプランをぜひ前向きに考えて

いただけたらというふうに思います。淀江は古代史の文化遺産の宝庫でもあり、東大人文学部が注目しておりますので、この取組を大いに期待しております、この質問を終えたいと思います。

続きまして、2点目、生活習慣病についての質問をさせていただきます。

まず、以前は成人病という名称でございましたけれども、今、生活習慣病という名称になっております。これがいつ、また、その名称が変わった背景についてお伺いいたします。

○岡田議長 塚田福祉保健部長。

○塚田福祉保健部長 成人病が生活習慣病と呼ばれるようになった時期や背景についてでございますが、平成8年に、当時の厚生省公衆衛生審議会の審査結果を受けて、成人病が生活習慣病と呼ばれるようになったところでございます。成人病は加齢が原因で発症、進行する病気とされておりましたが、子どもの頃からの生活習慣の積み重ねが疾病の発症や症状の進行に深く関与していることが明らかになりまして、生活習慣を改善することで疾病の発症、進行が予防できるという認識を国民に醸成するため、生活習慣病と呼ばれるようになったところでございます。

○岡田議長 森谷議員。

○森谷議員 厚生労働省の資料によりますと、生活習慣病というのは食習慣、運動習慣、休養、喫煙、お酒などの生活習慣がその発症、進行に関与する原因であるというふうに定義されているというふうに伺っております。今後、生活習慣病に対する一つの本市の取組がフレイル事業だというふうに理解しております。

そこで本市におけるフレイル事業についてお伺いいたします。

フレイル対策事業の令和6年度と令和7年度の当初予算額をお伺いいたします。

○岡田議長 塚田福祉保健部長。

○塚田福祉保健部長 令和6年度のフレイル対策に係る予算額は一般会計と介護保険事業特別会計分を合わせますとおよそ1億260万円でした。また、令和7年度の予算額はこれと同程度の1億270万円を計上しているところでございます。令和7年度は65歳以上の対象者へフレイル度チェックの案内を継続することに加え、健康ポイントの対象者や付与ポイントの上限を拡充する予定としております。また、スポーツジムや文化教室等に一定期間通われた方へインセンティブを付与するなどフレイル予防の実践と習慣化を促す事業にも注力いたしまして、展開したいと考えているところでございます。

○岡田議長 森谷議員。

○森谷議員 それでは、本市が取り組んでいらっしゃいますフレイル事業、この成果と課題についてお伺いいたします。

○岡田議長 塚田福祉保健部長。

○塚田福祉保健部長 フレイル対策事業の成果と課題についてでございますが、今年度のフレイル度チェックの集計結果を見ますと、2月末現在で健康の割合が前年度末に比べ4.4ポイント増加するとともに、プレフレイルで0.8ポイント、フレイルが3.6ポイント、いずれも減少しております。また、フレイル対策拠点で行っている「ふらっと、運動体験！！」や各地区公民館等でのリモート運動体験は実施回数と参加者数がいずれも前年度の1.4倍程度に増加する見込みでございまして、フレイル予防の取組

の裾野が広がっていると感じているところでございます。一方、課題といたしまして、フレイル度チェックの実施割合や予防実践教室等への男性の参加が少ないことが上げられます。引き続き、教室参加者を通じた小まめな声かけや勧誘など、男性参加者を促したいと考えております。

○岡田議長 森谷議員。

○森谷議員 私もフレイル教室、ちょっと顔出したことあるんですけど、やっぱり圧倒的に女性、婦人の方が多くて、男性の方が少ない。3対1か、4対1ぐらいの割合で男性が少ないかなというのは非常に印象に残りました。ずっとフレイル対策事業を推進されて、それが健康寿命に効果出てるということを、また思っておりますし、期待はしております。

そこで成人病は加齢が原因で発症、進行する病気と言われておりますけれども、しかし、先ほどの答弁で、子どもの頃からの生活習慣の積み重ねが疾病の発症や症状の進行に深く関与しているということが明らかというふうに述べられました。正しい食習慣を身につけるためには若いときから取り組む必要がございます。子どもたちの正しい食習慣、つまり家庭、そして学校給食に願われてることが大きいかと思っております。2005年に食育基本法が制定され、2008年には学校給食法が改定されました。

そこでお伺いいたします。学校給食法の7つの目標についてお伺いいたします。

○岡田議長 長谷川教育委員会事務局長。

○長谷川教育委員会事務局長 学校給食法の7つの目標についてのお尋ねでございますが、目標は学校給食法第2条に掲げられて

おりまして、学校給食を実施するに当たりまして、義務教育における教育の目的を実現するために達成されるよう努めることとされている目標でございまして、具体的には適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図ること、日常生活における食事について正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、及び望ましい食習慣を養うこと、社交性及び協同の精神を養うこと、生命及び自然を尊重する精神を養うこと、勤労を重んずる態度を養うこと、伝統的な食文化についての理解を深めること、生産、流通及び消費について正しい理解に導くこと、以上の7つの目標が設定されているところでございます。

○岡田議長 森谷議員。

○森谷議員 ありがとうございます。先ほど言われましたように、7つの目標の中に、特に2番目ですね、日常生活における食事について正しい理解を深め、健全な食生活を営むというふうにうたってございます。健全な食生活は大切である、これは当然の結論なんですけども、では、実際の学校給食が児童生徒に健全な食生活の指導ができてるかどうかということを確認したいと思っております。

千葉県は子どもの生活習慣病について特に取り組んでる県の一つかと思えますけれども、千葉県は、平成20年から22年度の千葉県の学童期からの生活習慣病予防事業の報告によると、個人の自覚と努力に加え、家庭、学校、地域等の社会全体による啓発支援が必要であると、そして生活習慣の基礎が形成される学童期に適切な習慣をしっかりと身につけることで生涯にわたる予防効果が期待できると、また子どもも大人も家族みんなと一緒に取

り組むことが成功の秘訣であるというふうに報告されております。また、福島県立医科大学の見解によりますと、朝の欠食、夜食、早食い、運動不足、睡眠不足などの生活習慣によっておなかに内臓脂肪型肥満の状態となって、これが小児生活習慣病、すなわち高血圧、脂質異常、耐糖能異常を起こす要因となりますと、幼児期の肥満は約30%、学童期の肥満が約40%、思春期の肥満が80%が成人肥満に持ち越され、成人の生活習慣病の原因にもなり得ますというふうに福島県立医科大学の報告がございました。

そこでお伺いしたいと思います。子どもの生活習慣病の一つに肥満がございましたけれども、鳥取県全体でどうなのか、どうでしょうか、子どもたちの肥満傾向についてのお伺いをしたいと思います。

○岡田議長 長谷川教育委員会事務局長。

○長谷川教育委員会事務局長 鳥取県の子どもの肥満傾向についてのお尋ねでございますが、令和6年度の学校保健統計調査の結果によりますと、鳥取県におきます肥満傾向児の出現率は5歳から17歳まで全ての年齢で全国を下回っているという状況でございます。以上です。

○岡田議長 森谷議員。

○森谷議員 ありがとうございます。鳥取県は全国よりはいい傾向というか、5歳から14歳までが全国よりも下回っているという報告でございました。でも、全国的には今、どんどん増加しているという傾向もありますので、鳥取県にとってゼロではないということだと思っておりますので、しっかりと取り組んでいただきたいと思っております。

文部科学省のデータによりますと、我が国では1970年代後半から2000年代前半に向けて食生活やライフスタイルの変化などによって男女ともに子どもの肥満の割合が増加しているということもデータの的にも出てます。特に2016年から再び増加傾向に転じて、2020年では11歳男児の13.31%、女児の9.36%が肥満度20%以上の肥満傾向児であるというふうに、これ全国のデータなんですけども、そういうふうなデータも出ております。小児生活習慣病のみならず、成人期に発症する生活習慣病を予防する意味において、子どもたちの肥満に対する早期発見、早期治療が大切かというふうに言うことができます。そして、子どもの生活習慣病の予防という観点では、学校給食を生かした食育が重要であると私は考えております。学校給食の目標である健全な食生活、営むことのできる判断力を養うことができれば、子どもの生活習慣病の予防につながってまいります。

私は以前から学校給食の問題についてオーガニック給食ということを取り上げておりますけれども、オーガニック給食を実施することによって子どもの食への関心が高まる、そして子どもたちがより健全な食生活を送るきっかけになるという、そしてこのオーガニック給食を実施すれば、子どもたちだけではなくて、家庭にも健康のための食文化というものが広がっていくというふうに考えておりますので、ちょっとオーガニック給食に対する質問させていただきます。オーガニック給食を全国の市町村、どのくらい実施されてるかをお伺いいたします。

○岡田議長 長谷川教育委員会事務局長。

○長谷川教育委員会事務局長 オーガニック給食を実施している

全国の市町村の数についてのお尋ねでございますけれども、農林水産省が実施いたしました令和4年度における有機農業の推進状況調査によりますと、令和4年度末の時点で学校給食で有機食品を利用している市町村数は193でございます。

○岡田議長 森谷議員。

○森谷議員 この193っていうのは本当にまだまだこれからかなとは思いますが、特に、先ほど言いましたように、千葉県が子どもたちの生活習慣病に対する取組が熱心であるというふうに報告しましたが、千葉県の中のいすみ市はオーガニック給食で全国から注目されている一つのところだというふうにも聞いております。オーガニック給食はお金がかかるということもありますけれども、みどりの食料システム戦略推進交付金のうち有機農業産地づくり推進という面では有機農業の全面的な拡大によって生産、それから消費は一貫した取組をすることによって、消費の中でも特に学校給食の利用によってオーガニック栽培が有効的な一つの基盤、実績をつくっているというふうに聞いております。

それでは、最後、お伺いたします。学校給食を食育の視点から進化させるためにオーガニック給食を実施する価値があると思えますけれども、子どもたちの健康の食習慣の第一歩として、オーガニックという前に、まず、有機米給食、これからスタートしたらどうかというふうに思っておりますので、御見解をお伺いたします。

○岡田議長 長谷川教育委員会事務局長。

○長谷川教育委員会事務局長 有機米を使った給食から始めてはどうかというお尋ねかと思いますが、有機米につきましては、環

境への負担軽減などの利点について一定の評価があることは認識しているところでございます。しかしながら、安定的な調達が困難であったり、さらには価格が高額になると予想されることもございまして、有機米を学校給食に導入する考えはございません。以上です。

○岡田議長 森谷議員。

○森谷議員 有機米を学校給食に導入する考えはないという答弁でございましたけれども、ほかの議員も言われたかと思えますけど、米子、本当に米子という名前からいっても米どころですから、せめてお米、有機米を中心とした学校給食の取組ということの一つは期待するところなんですけども、教育には知育、体育、徳育、食育の4つがございます。その中でも特に近年、この徳育と食育に対する取組が若干弱くなってるかと思えます。しかし、これは子どもたちの心身の健全な成長という意味では徳育、そして食育、これは重要だというふうに考えております。子どもたちの生活習慣病を取り上げたのも、この問題を個人の自覚と努力に加えて、そして家庭、学校、地域等の社会全体による啓発、支援が必要だというふうに考えております。ぜひ米子市は本当に米どころですから、有機米給食からスタートして、そのことによって元気な子どもたちが成長することによって、医療費も削減できたり、また有機米給食ということで子育て世代の家庭が米子に移りたいという若い世代も増えていくかと思えますので、今後、また期待しておりますので、よろしく願いいたします。以上で終わります。ありがとうございました。